

DataCloset-Ⅱ のセットアップ手順

本手順書は、以下のステップより構成されます。

Step 1. DataCloset-Ⅱ のシステムをインストールする

Step 2. テーブル情報を取り込む

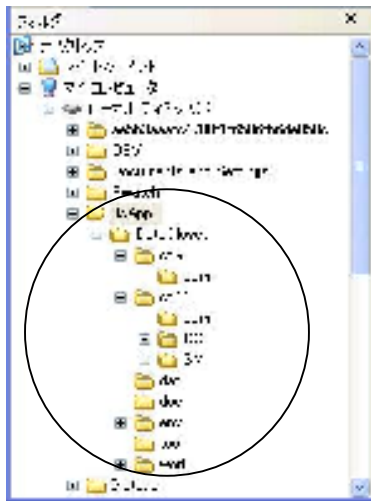
補足1. システムフォルダを変更する

補足2. システムDBを変更する

本手順書では、Oracleを対象に、テーブル情報の作成までの手順を説明します。
テーブル情報の編集、データ辞書の作成、パターンの作成、等の操作方法に関しては、
¥IlsApp¥DataCloset¥Docフォルダ内の、
設定マニュアル (ユーザ情報、DB情報、テーブル情報、データ辞書の定義方法)
操作マニュアル (パターンの作成及び実行方法)
を参照してください。

Step 1.

1. CDドライブ直下に、DataCloset.LZHを展開する。



※上記と異なるフォルダにインストールする場合は、「補足1.システムフォルダを変更する」に従って設定を変更してください。

2. ¥IlsApp¥DataCloset¥toolフォルダの以下の3ファイルを、dbMAGiC の作業フォルダ
(例: "C:¥Program Files¥Magic¥eDeveloperPlus")にコピーする。
GUDF.DLL
GUDF.MUD
MGTOOLS.DLL

3. システムDBとサンプルDBを作成します。

システムDB・・・DataClosetの設定情報を格納します
 サンプルDB・・・ASPAC用のサンプルDBを格納します

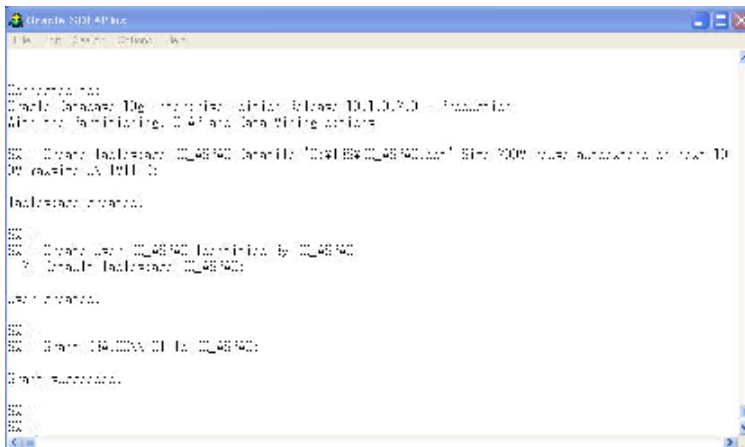
システムDB

DB名	DC2
ユーザパスワード	DC2
ユーザ名	DC2
パスワード	DC2
接続文字列	DC2

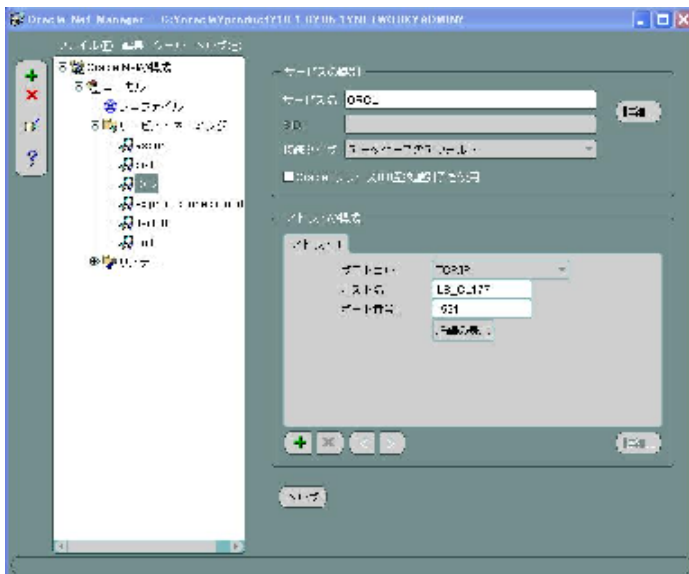
サンプルDB

DB名	DC_ASPAC
ユーザパスワード	DC_ASPAC
ユーザ名	DC_ASPAC
パスワード	DC_ASPAC
接続文字列	DC_ASPAC

- ① %\IsApp\%tool\%sql フォルダの以下のSQLを、SQL*Plus 等で実行し、テーブルスペースを作成します。



- ② NetManager 等を使って、上記テーブルスペースへの接続文字列を指定します。



③ 添付のdmpファイルをインポートします。

システムDB・・・dc2.dmp

サンプルDB・・・dc_aspac.dmp

```

コマンドプロンプト - IMP DC2/DC2@DC2
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\hagaishi>CD\TBS
C:\TBS>IMP DC2/DC2@DC2

Import: Release 10.1.0.2.0 - Production on 金 3月 5 13:04:58 2010
Copyright (c) 1982, 2004, Oracle. All rights reserved.

Connected to: Oracle Database 10g Enterprise Edition Release 10.1.0.2.0 - Production
With the Partitioning, OLAP and Data Mining options

Import file: EXPDAT.DMP > DC2.DMP

Enter insert buffer size (minimum is 8192) 30720>

Export file created by EXPORT:V10.01.00 via conventional path
import done in JA16SJIS character set and AL16UTF16 NCHAR character set
List contents of import file only (yes/no): no >

Ignore create error due to object existence (yes/no): no >

Import grants (yes/no): yes >

Import table data (yes/no): yes >

Import entire export file (yes/no): no >
Username: DC2

```

※テーブルスペースの作成場所、ユーザ名等は適時変更が可能です。
 データベース名、ユーザ名、パスワード、接続文字列を変更した場合は、DataCloset
 のDB定義の変更が必要になります。(「補足2.システムDBを変更する」を
 参照してください。)

3. INIファイルに、%IlsAppl%DataCloset%env%dc9.ini を指定してdbMAGICを起動する。

(例:)

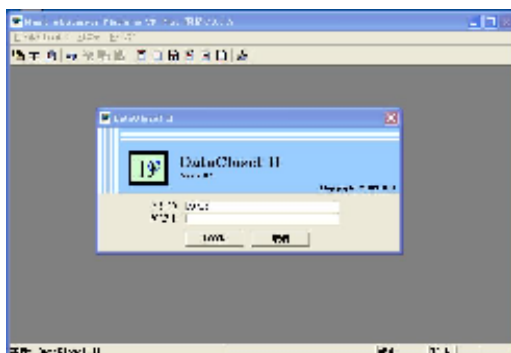
C:\Program Files\Magic\DeveloperPlus\MGgenw.exe /@c:%IlsAppl%DataCloset%env%dc9.ini

※標準設定の場合は、%IlsAppl%フォルダ内のショートカットが利用できます。

4. システムにログオンし、メニューが表示されることを確認してください。

USER ID= 'SUPER'

PASSWORD= なし



5. メニューが表示されたら、<Exit>を押して、システムを終了します。

Step 2.

このステップでは、テーブルリポジトリの内容をDataClosetのテーブル情報に取り込みます。処理は以下の2ステップになります。

- ① テーブルリポジトリの内容をテキストファイルに仕様書出力する。
- ② ①で仕様書出力されたファイルを指定して、テーブル情報を読み込む。

1. 対象となるシステムを開発版で起動します。
2. <設定>-<動作環境>より、「外部参照タブ」を選択する。
3. ドキュメントテンプレートファイルに、以下のファイル名を指定する。

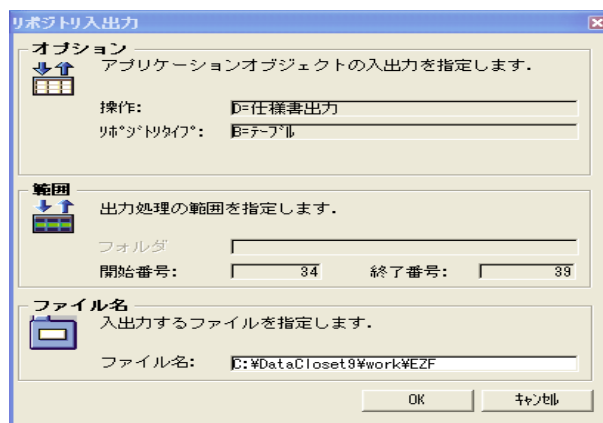
¥IlsAppl¥DataCloset¥Env¥doc_dc.jpn



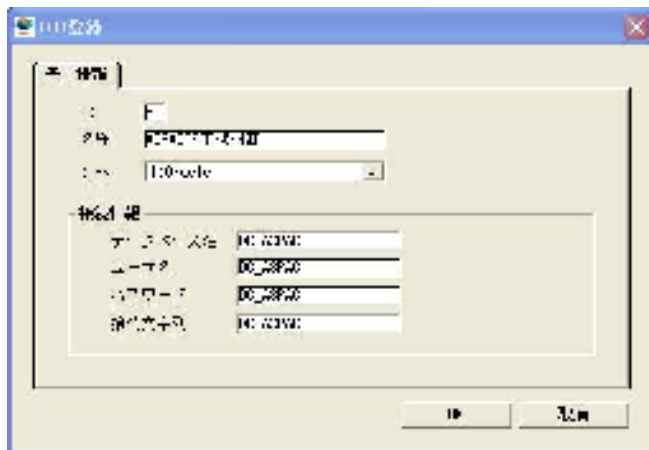
4. <設定>-<プリンタ>より、先頭のプリンタの行数を'999'に変更する。



5. リポジトリ入出力を実行する。



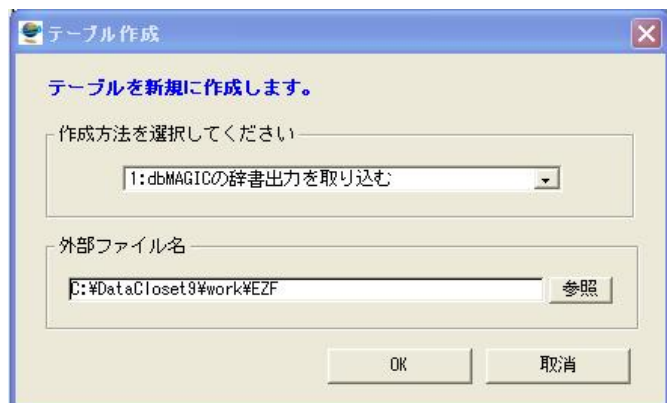
7. DataClosetを起動し、DB登録権限のあるUSER IDでログインします。
 (インストール時は以下のユーザでログインします。)
 USER ID= 'SUPER'
 PASSWORD= なし
8. システム設定画面から、DBのプロパティを表示します。



ID: DBを識別するための任意の2桁の文字列を指定します。
 DBMS: Oracleを選択します。
 接続情報: 対象システムのデータベース情報

* OKボタンを押して画面を閉じます。

9. システム設定画面でテーブル情報を選択し、<追加(F4)>を実行します。



- 10.作成方法に「1:dbMAGICの辞書出力を取り込む」を指定し、外部ファイル名に 5. で作成した辞書出力ファイルを指定して、OKを押します。



選択	分類	名称	DBテーブル名
☒	☐ 1:マスタ ☐ 2:データ ☒ 3:他	型TEST	SAM_TEST
☒	☒ 1:マスタ ☐ 2:データ ☐ 3:他	名称マスタ	SAM_MEI
☒	☒ 1:マスタ ☐ 2:データ ☐ 3:他	取引先マスタ	SAM_TORIHICI
☒	☒ 1:マスタ ☐ 2:データ ☐ 3:他	商品マスタ	SAM_SYOHIN
☒	☐ 1:マスタ ☐ 2:データ ☒ 3:他	伝票ファイル	SAM_DENPYO
☒	☒ 1:マスタ ☐ 2:データ ☐ 3:他	日付マスタ	SAM_DAY

選択件数

OK 取消

- 11.一覧から登録したいテーブルを選択し、必要に応じて、分類、名称を変更後に、OKボタンを押します。

```

/[MAGIC_DATABASES]DCSYS = 14, DC2, , , DC2, , DC2, DC2, NoMagicRecordLock, ...
/[MAGIC_DATABASES]DC OR = 14, DC2, , , DC2, , DC2, DC2, NoMagicRecordLock, ...

```